

第118回大江戸探索会（高輪ゲートウェイシティ界限）

6年前に誕生した山手線新駅の高輪ゲートウェイ駅周辺には約6000億円の巨費が投じられ、周辺開発が進行中である。工事中も本年3月には高輪ゲートウェイシティが部分開業、真新しいビルが立ち並ぶ中、駅前ビルの一つの最上階28-29階（吹き抜け、入場無料）が9月にオープン。早速、大江戸探索会で行ってみた。眼下に新駅、車両基地から東京駅に向かう新幹線や各種列車、さらに遊覧船、周辺ビル、レインボーブリッジと東京湾を一望できた。



写真：高輪ゲートウェイ駅北口 ザ リンクピラー
ワン28階の展望スペースにて集合写真。

現在、新駅を挟む田町駅～品川駅間の東側は大規模開発中で、新駅～田町駅方向第一京浜沿いの仮設壁には明治5年我が国初の鉄道開業時の海上に敷設された高輪築堤の様子が描かれ、さらに明治期の鉄道が走っていた場所の歩道にまっすぐレールが埋められていた。



写真：泉岳寺で赤穂浪士の墓に線香をたむけ、ボランティアの説明にも耳を傾けた。

都営地下鉄泉岳寺駅の北、第一京浜沿いには高輪大木戸跡の石垣が残り、駅の南角を東に折れると泉岳寺があるが、赤穂浪士の墓には外国人の姿が多く、驚いた。近くの二本榎通りには大石蔵之助以下17名が切腹した細川邸の門の一部が保存会と当地教育委員会にて史跡として保存されていた。

さらに進み、通りのシンボル、高輪消防署二本榎出張所へ着いたがすでに4時を回っており、残念ながら見学できなかった。

その先の高野山東京別院に向かうと、境内正門脇には故後藤田正晴氏寄贈の四国88か所のお砂踏みがあった。



品川駅に戻り、その後、有志にてまだ開発されていない東側にて、恒例の反省会で喉を潤し、解散した。



（飛田悦男・記） 写真： 高野山東京別院

高輪消防署二本榎出張所